

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立田野浦小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	51.1	48.1	44.4	50.1	48.2
	本年度結果 偏差値平均	48.4	50.7	45.3	49.4	48.6	48.6
算数	前年度結果 偏差値平均	/	50.4	48.1	48.9	49.6	48.8
	本年度結果 偏差値平均	48.1	50.2	47.2	48.8	49.8	48.8
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	48.7	49.6	48.5
	本年度結果 偏差値平均	/	/	45.3	48.9	49.1	47.8
全体	前年度結果 偏差値平均	/	50.8	48.1	47.3	49.6	48.6
	本年度結果 偏差値平均	47.8	50.5	45.8	49	49.2	48.5

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	64 (-3)	62 (-2)
本年度結果 (対県比)	64 (-5)	58 (-6)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>【国語】評定1の児童26名 正答率40%未満の児童44名【算数】評定1の児童32名 正答率40%未満の児童40名 各学年での全国平均との差が大きかった問題は以下の通り</p> <p>【国語】2年「文章に合う図を選ぶ」(20% 全国比-20)3年「話し合い・提案」(49% 全国比-10)、「片仮名(ピューピュー)」(26% 全国比-10)4年「国語辞典の使い方」(36% 全国比-32)5年「要旨の読み取り」(40% 全国比-18)6年「漢字の読み(志)」(24% 全国比-29)</p> <p>【算数】2年「場面から減法の計算」(30% 全国比-15)3年「三角形を描く」(44% 全国比-12)、「四角形を描く」(43% 全国比-12)4年「棒グラフの読み取り」(31% 全国比-28)5年「三角定規を用いた角」(36% 全国比-21)6年「除法の結果と分数」(18% 全国比-26)</p> <p>領域別で見ると、国語、算数共に、学年ごとに課題のある領域が異なることが分かった。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科における課題は以下の通り</p> <p>「配当学年の漢字を書く【いいい】」(41.3% 対県比-12)</p> <p>「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」(20.6% 対県比-8.4)</p> <p>「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える」(68.3% 対県比-7.5)</p> <p>●算数科における課題は以下の通り</p> <p>「台形の意味や性質についての理解」(46% 対県比-16.9)</p> <p>「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断する」(7.9% 対県比-12.6)</p> <p>「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする」(61.9% 対県比-11.3)</p>
---	---

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全学級において、学習規律の徹底を図る。</p> <p>○全教職員が「ユニバーサルデザインの授業」を柱とした「全員が分かる」授業づくりを行う。</p> <p>○全教職員が、算数科を中心とした児童の思考を深める発問構成の工夫を行う。</p> <p>○全教職員が、個に応じた指導方法の工夫と学習意欲の向上を図る。</p> <p>○全教職員が、全国学力学習状況調査を生かした授業づくりを行う。</p>	<p>①NRT結果の分析による、各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案</p> <p>②学習規律の重点取組項目の設定と取組期間の設定</p> <p>③ユニバーサルデザインの授業を基本とした授業づくり</p> <p>→「対象児童」の設定とつまづきを想定した発問構成</p> <p>④ICT機器等の効果的な活用</p> <p>⑤ドリルタイム、家庭学習を活用した反復学習による学習事項の徹底</p> <p>⑥「放課後学習」等での個別指導を通じた学力に課題のある児童への支援</p> <p>⑦全国学力・学習状況調査の結果分析による課題の把握、学習指導案へ関連を明記</p>	<p>①6月、夏季休業中</p> <p>②学期に2回実施(取組期間は1週間)</p> <p>③6月に校内研修実施、授業研究で重点的に取り組む、年間を通して実施</p> <p>④⑤年間を通して実施</p> <p>⑥「放課後学習」は週3回</p> <p>⑦夏季休業中、授業研究で重点的に取り組む</p>	<p>○算数科単元末テスト、同一集団の伸び率、前年度比プラスポイント</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全教職員が、児童全員が安心して生活できる学級づくりを行う。</p> <p>○全学級において、構成的グループエンカウンターを計画的に実施する。</p> <p>○SRを効果的に活用する。</p> <p>○全教職員が、児童同士がよさを認め合えるような学習の場を設定する。</p> <p>○全教職員が、児童への肯定的評価を継続して行う。</p>	<p>①QU結果の分析による、各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案</p> <p>②「生活のきまり」の徹底による、安心して生活できる学級づくり</p> <p>③各主任会において、現状と課題及び取組内容の共有</p> <p>④構成的グループエンカウンターの実施に向けた校内研修の実施</p> <p>⑤授業や特別活動を通して、お互いの良さや違いを認め合える場の意図的な設定</p> <p>⑥「できたこと」だけでなく、「がんばっていたこと」に視点をおいた、肯定的な声かけ</p>	<p>①7月・8月</p> <p>②4月に周知、年間を通して実施</p> <p>③月に1回</p> <p>④校内研修:夏季休業中 エンカウンターは月に1回</p> <p>⑤⑥年間を通して実施</p>	<p>○「学校生活満足群」に属する児童の割合の上昇</p> <p>○「学級生活不満足群」及び「要支援群」に属する児童の割合の減少(12月QU実施時に比較)</p>